

◇ 医師からのコメント抜粋 ◇ (一部割愛・編集しています)

「医療を提供しているとその限界も見え、自分が病気になったときは“寿命がきた”と判断して医療を受けたくない、という気持ちが強くなった。」(40代,内科,一般病院)

「思ってもみない結果が出ると人間は動揺するものであることがよくわかった」(50代,放射線科,一般病院)

「健康管理は重要だと思うが、他の医療機関を受診するのはハードルが高い」(50代,外科,診療所・クリニック)

「検診などを受ける時間もなく、症状にあわせて友人医師に内服処方を出してもらい済ませる事が多い。」(40代,救急医療科,一般)

「人間ドックの再検査を受けて、病名告知前に患者さんがどのくらい病気について心配しているか実感した」(40代,内科,一般病院)

「健診に対する価値観、病気に対する価値観はそれぞれであり、強要されるものでは決してない。また、結果の還元が十分にできているのかという疑問がある。どこまで踏み込んで検査すべきなのか、逆に不足していないのかなど、検討すべき余地はたくさんある。」(40代,内科,診療所・クリニック)

「39歳の時に体調を崩して1-2か月仕事ができなかった。病院勤務だったのである程度は収入があったが、それでも生活費を切りつめる必要があった。現在開業しており、同様な事態が起こると不安に思うことがある。」(40代,皮膚科,診療所・クリニック)

「身近な先生で、症状が出ているのに“まだ大丈夫”と過信してしまい、忙しいこととも重なり受診をのびした結果手遅れになったケースがあり、自分も注意が必要と思います」(60代以上,内科,一般病院)

「他に医師がおらず、薬を飲みながらの診療は正直つらかった。」(40代,消化器科,一般病院)

「頸椎椎間板ヘルニアで手術をすることになったが、上肢の症状の時に受診をしていれば経過がもっと良かったと思われる。」(40代,整形外科,診療所・クリニック)

「症状があっても進行性でない場合は職務を優先することが多い。自己判断は必ずしも正しくないことを認識しなくてはならないと反省している。」(60代以上,循環器科,一般)

「健康診断をしなかったツケで、今年網膜剥離になることがわかっている。”医者”の目であるため、後悔している。」(60代以上,内科,診療所・クリニック)

「年齢の近い先輩医師が大腸がんとなり、大腸内視鏡を含めた侵襲的な検査も定期的に施行しなければと思ってはいるが、時間的な余裕のなさから受けられないことが日々ストレスとなっている。」(50代,内科,一般病院)

「身体が資本と改めて感じた。検査、治療にかかる時間を捻出するのが大変困難であった」(50代,循環器科,診療所・クリニック)

「自分で受けて初めて、検査の苦しさがわかる」(40代,小児科,一般病院)

「検診の際は強制で休みにするくらいでないとう診率は上がらないと思う。」(40代,内科,一般病院)

「曜日や時間帯から、実際に医療機関を受診できるタイミングが限られている」(50代,内科,一般病院)

「問題意識から具体的な受診行動にうつす際のギャップは、意外と大きいと思った。」(50代,内科,診療所・クリニック)

「(院内の)知り合いに診てもらおうことになるので受診を躊躇することがあります。」(40代,血液内科,大学病院)

「バリウム検査がこんなにきついとは思っていなかった。」(30代以下,外科,大学病院)

「肺がんが末期の状態で見つかった現役の医者があった。」(50代,内科,診療所・クリニック)

「疾病を発見するというよりも、安心のために受けるべきだと思う。患者の立場を経験できるのは貴重なこと」(40代,内科,一般病院)

「やっぱり医師の言うことにはなかなか逆らいにくいというか、聞きたいことが聞きにくかったりする」(30代以下,整形外科,一般病院)

「胃カメラはつらい」(50代,整形外科,一般病院)

「糖尿病の母が血糖コントロールを悪くし、半年後の定期健診で膵癌が見つかり、それが死因となりました。受診をしなればいけません、こんな経験をしていても、自分は別と思ってしまうのですよね・・・。」(40代,内科,診療所・クリニック)

「自分の専門科(の疾患)の時どうしたらいいかわからない。」(50代,外科,一般病院)

「職場の義務で健康診断は毎回受けていますが、日常業務が多忙なため、精密検査が必要となってもなかなか平日昼間に受診するのは大変だと思います。」(30代以下,呼吸器科,一般病院)

「健康診断と保険診療を同時にできれば、健診受診率もあがるのではないかと思います。」(30代以下,産業医,診療所・クリニック)

「入院患者になってみてわかったのは、何もなければそっとしておいて欲しいということだ。遠くから暖かく見守ってもらえれば十分。元気な人(医療者含む)を相手にするのは結構疲れる。医療とは単なるサービス業ではないと実感した。」(40代,内科,診療所・クリニック)

「健康診断が学術的に有効と認められるものなのか、疑問に思うことがある。」(30代以下,循環器科,一般病院)

「検診の有用性はほんとうにあるのだろうか？ やるなら胃カメラやバリウム検査は必須にする必要があると思う」(30代以下,救急医療科,大学病院)

- 「実際に患者になって、大学病院では患者を待たせるのが当たり前としているところに気づいた。」(30代以下,皮膚科,大学病院)
- 「自分で確認できる部分は年一回はチェックしていますが、内視鏡など他院でしてもらわないとダメな検査はどうしても先送りにしてしまいます。自営業のつらいところですよ…」(40代,内科,診療所・クリニック)
- 「常に早期発見を心がけて検診を受けていても、やはり漏れ落ちはある。症状が出てからでも早期受診することで軽症で済むことも自身で経験すると、患者に対する説明も説得力が増した。」(50代,放射線科,一般病院)
- 「自分で検査してます。内視鏡も自分自身で挿入して検査します。得意技です。」(50代,内科,診療所・クリニック)
- 「気合で仕事する文化が根付いており、気軽に休めるほどの人員が確保されていないため、病気になってからでないと体のメンテナンスができない。」(30代以下,小児科,大学病院)
- 「人間ドックを受診して、クレアチニンが高値であることが判明し、CKDであることがわかりました。クレアチニンが検査に導入されたから分かったことで、検査項目の見直しが必要であると思いました。」(60代以上,内科,一般病院)
- 「胃カメラを初めて受けたが緊張した。」(30代以下,内科,診療所・クリニック)
- 「常勤の頃は必ず受診していましたが、結婚して非常勤になるとなかなかチャンスがありません。常勤ではない女性医師がもっと受診しやすくするシステムがあるといいと思います。」(30代以下,皮膚科,診療所・クリニック)
- 「人間ドックを 日曜日や休日、または平日午後からも受けられる施設を増やしてほしい。」(40代,内科,診療所・クリニック)
- 「1日人間ドックに入る時間的余裕がない」(30代以下,救急医療科,一般病院)
- 「仕事が忙しくて体調を崩すが仕事のため受診できないという悪循環にはまります。」(30代以下,循環器科,一般病院)
- 「人間ドックの項目に簡易スパイログラフィー(肺年齢)や BNP 値を入れて、もっとハイリスク集団を効率よく抽出する努力をした方が良い。」(30代以下,外科,大学病院)
- 「健康診断や人間ドックを受けていると全ての疾患が早期発見できている人も多いようだが、それらで引っかかるのは一部の疾患だと考えてもらいたい。また、1年の間でも一気に進行する癌もあり、健康診断や人間ドックは有用ではあるが万能ではないことを周知してほしい。」(30代以下,その他,一般病院)
- 「自分ばかりでなく家族が病気になり医療機関の世話になったときには、患者の気持ち、心配、不安を実感することができる」(60代以上,循環器科,大学病院)
- 「職場で健診を受けられることはありがたいが、何か異常があった場合はすぐに院内に知れ渡ってしまいそうという不安もある」(30代以下,外科,一般病院)
- 「入院中はいろんなスタッフが頻繁に入室してくるのでリラックスできなかった。」(40代,小児科,一般病院)
- 「検診では心配している疾患(例えば前立腺など)を網羅していないため、受ける意欲を欠いた。」(60代以上,外科,一般)
- 「病気になっても休暇が取りにくく、周囲に迷惑をかけるので、健康診断は必ず受けるようにしている。勤務医の時は自分がいなくても代わりはいるが、開業すると休診にせざるを得ず、大変な思いをした。」(50代,形成外科,診療所・クリニック)
- 「自分の専門領域の検査を受ける場合は緊張します。結果がわかると先が見えるから、こわい気がします。」(60代以上,脳神経外科,一般病院)
- 「歯科への受診はついつい遅れがちになります。総合病院系で歯科のある所だとちょっと相談、とかもできますが、個人病院では歯科がないのがほとんどですし、仕事を休んでまで受診する程ではないとか、週末に改めて歯科医院に行くのも面倒だったりして受診が遅くなる事が多いです。」(50代,内科,介護老人保健施設)
- 「医師が少ない科であるため、一人が倒れると膨大な業務が残りの医師にきて処置しきれないことがあった。」(60代以上,呼吸器科,一般病院)
- 「十二指腸潰瘍で入院した時は、患者はなんと弱いものかと実感した」(50代,精神・神経科,診療所・クリニック)
- 「知人が急な入院になったときに、診療所を仲間でバックアップしました。忙しくて、また代わりを頼んで診察を受ける時間がなかったとのことでした。」(50代,内科,診療所・クリニック)
- 「客観的な判断が鈍るのか専門医への受診が遅れがち、特に65歳以上はその傾向が強い。開業医は時に自費で薬剤を購入し、それでだましましの治療をしているケースがある。」(50代,内科,診療所・クリニック)
- 「血液検査などはしやすいが、昨年初めて大腸ファイバーをしてポリープが見つかった。出来れば人間ドックを毎年受け、胃カメラなども継続したいが、忙しく難しいのが現状です。」(30代以下,整形外科,一般病院)
- 「自分の勤務する病院に受診希望の科があれば ぶつうはそこを受診します。しかし大学の医局人事であちこちに勤務した経験上、自分の家族の受診も含めて、プライバシー・個人情報ほぼ守られないと感じています。現在の勤務先も、オーダーリングシステムを使える立場の人ならだれでも、個人情報を入手でき、病名や処方など簡単にわかります。もっとアナログな点をいえば、“看護師の口に戸は立てられない”です。」(40代,小児科,一般病院)
- 「全身倦怠感が強く、微熱が出た時に原因がわからず、呼吸器症状がほとんど無かったが胸部X線検査を行なって、肺炎になっていた時は驚いた。マイコプラズマ肺炎だったが、熱が低いわりに症状が強く出るのだなと解った。」(40代,内科,診療所・クリニック)
- 「指を骨折したが、職員がどのように受診すればよいかわからず、ためらってしまったため受診が遅れてしまった」(30代以下,精神・神経科,大学病院)

- 「先ごろ、入院しました。主治医をはじめスタッフの方々に大変よくしていただき、感謝の限りです。自分も患者さんにとって、頼りがいがあり、感謝される医師でいなければいけないという気持ちを新たにしました。」(60代以上,整形外科,一般病院)
- 「なかなか休暇をとって、人間ドックにかかれぬのが悩み。人間ドック休暇みたいな制度が有るといいんだけど。」(50代,内科,診療所・クリニック)
- 「便潜血陽性のため、昨年初めて大腸ファイバー検査を受けた。結果は良性のポリープだったが、勇気があることであった。」(50代,内科,診療所・クリニック)
- 「健康は自己責任である。もっと早く受診すればよかったです。そこまで健康に注意しなかった運命。といって検診をこまめに受ける人はただ単に責任転嫁したいだけ。病気というのはある程度遺伝子上で決められた運命です。治療を受けて長生きできるのも運命。受けられずに命が閉じるのも運命でしょう。」(30代以下,外科,大学病院)
- 「単純レントゲン(肺)で異常を指摘され、CTを行うまで心配した。」(50代,整形外科,診療所・クリニック)
- 「健康診断で引っかかっても、勤め先だと精密検査を受けにくい。」(40代,消化器科,一般病院)
- 「患者には早期発見が大事という割に、自分は病気を見つけたくない矛盾があります。」(40代,泌尿器科,一般病院)
- 「血圧が高め、少しぐらいなら、と放っておいたらかなりの高血圧に。自覚症状がないと甘く見がち」(50代,内科,一般病院)
- 「医科のものは意識しているのですが、歯科が盲点でした。つい面倒で行かずいたら、ある日突然歯がポロッと欠け、慌てて受診。既になんか進行した齲歯でした。他にも齲歯多数とのことで、今も通院が続いています。」(40代,外科,一般病院)
- 「胃カメラは想像以上に苦痛であった。」(50代,整形外科,一般病院)
- 「入院して患者さんの気持ちが判ったので、応対に気をつけるようになった。」(60代以上,産婦人科,診療所・クリニック)
- 「重度感染症で入院した際、食事の重要性和同室のいびきがこんなにも心身に影響するのかと実感しました。特に六人部屋、八人部屋というのは、本当に忍耐の日々でありました。入院設備は昭和の時代から全く変化がないように思えます。そろそろ、入院設備へも目を向けるべきかなと思います。」(40代,小児科,診療所・クリニック)
- 「実際に健康診断がきっかけで癌が見つかったDrもいるので他人ごとではないと思ってます。」(40代,産婦人科,大学病院)
- 「患者さんには偉そうに言うのに自分の健康管理は不十分。昨年目の手術をして、自己管理の大切さと医療者のありがたさを痛感した」(50代,小児科,大学病院)
- 「症状から自己診断してしまい、結果的に回復が遅れた。受診に時間を要することが一番の理由」(60代以上,その他,一般)
- 「評判のいい開業医のところへ特定健診に行って、細やかな診察や説明など、患者さんに人気のある理由を目の当たりにしたのは、医療人としても良い経験となった。気軽にできる“患者体験“になるような気がする。」(40代,麻酔科,診療所・クリニック)
- 「前立腺がん、右腎盂癌が検診で見つかった」(60代以上,内科,診療所・クリニック)
- 「なかなか健康診断を受ける時間がない。知り合いの外科医はPSA測定をご自分で測定し、次第に上昇し、あり得ない数値になっても放置し、病状が進行して尿血が出て、初めて相談を受けました。」(60代以上,泌尿器科,診療所・クリニック)
- 「健康なので患者さんの気持ちがわからないのではないかと心配です。」(30代以下,血液内科,大学病院)
- 「過去に、業務に支障がない外傷で勤務していた所、気付かれてストップがかかったことがありました。医師不足のため代わりがない状況では患者の診療が優先され、受診にはハードルが高く感じます。その分、職場健診は義務であり、権利と考え毎年受けています。」(50代,内科,一般病院)
- 「開業していると急には休診にはできないので、なかなか他の医療機関を受診できない。自分の専門分野であれば自分自身で投薬(治療)せざるを得ない。」(40代,内科,診療所・クリニック)
- 「外来や当直の時に、嘔吐下痢症だったり発熱してしんどかったときは、因果な商売だなあと思いました。」(30代以下,神経内科,一般病院)
- 「自分はまだ30代だが、同年代で生命に関わる患者を診察する機会も多いため、健康に気をつけるよう心掛けています。」(30代以下,産婦人科,一般病院)
- 「患者になって以後、(身体より)仕事を優先することの愚かさを、実臨床の場で啓蒙するようになった」(50代,外科,一般病院)
- 「まず自分で診断治療しようとしてしまう。こんな症状なんかで受診するののかとの思いから専門医に相談するのが遅れたり、あるいは他院で検査を受けるのが気恥ずかしかったりして受診が遅れる。」(40代,内科,診療所・クリニック)
- 「健康診断は職場で強制的に受けさせられるから問題ないのですが、体調を崩したときも仕事を抜けて受診することが、病院で働いていても困難だと思うことが多いです。」(30代以下,麻酔科,一般病院)